

# ロボット・ドローンが活躍する省エネルギー社会の実現プロジェクト

平成30年度予算額 **32.2億円（33.0億円）**

## 事業の内容

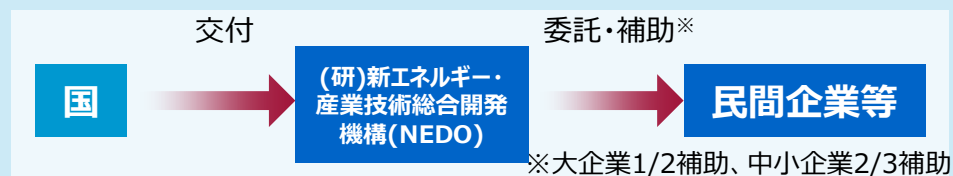
### 事業目的・概要

- 物流やインフラ点検分野等の省エネルギー化の実現に向けて、例えば、次のようなロボット・ドローンの活躍が期待されています。
  - 小口輸送において、積載率の低いトラックに代わり即時配達を行い、再配達率を下げることでエネルギーの無駄を減らすドローン。
  - 既存インフラを長寿命化させ、大量の資源とエネルギーを消費する建替えを減らすための点検作業を支援するロボット・ドローン。
- そのため本事業では、物流やインフラ点検等の分野で活用できるロボット・ドローンの社会実装を世界に先駆けて進めるため、それらの性能を定量的に評価するための基準の策定やシステムの開発を行います。
- また、我が国で開発されたロボット・ドローン技術やシステムの国際標準化を目指すことで、世界の省エネに貢献するとともに、我が国発の省エネ製品・システムの市場創造・拡大を実現します。

### 成果目標

- 平成29年度から平成33年度までの5年間で福島ロボットテストフィールド等を活用した実証等を通じ、ロボットやドローンの社会実装に向けた事業環境等を整備するとともに、国際標準の獲得を目指します。

### 条件（対象者、対象行為、補助率等）



## 事業イメージ

### ① 性能評価基準等の開発

物流やインフラ点検等に活用するドローンの性能を評価する基準や、その基準を満たすためのドローンの省エネルギー技術等の開発を行います。

### ② 運航管理と衝突回避の技術開発

目視外や第三者上空を自律飛行するドローンの社会実装に向けて、同じ空域を飛行する多数のドローンの運航を管理するシステムや、他の機体や地上の建物等との衝突を回避する技術の開発、準天頂衛星システムを活用した物流等の実証を行います。

### ③ 国際標準化の推進

標準の確立がこれからのドローンについては、欧米の標準化動向の把握及び同活動への参画を進め、上記開発成果を国際標準につなげます。

技術開発スピードが速く、デファクトスタンダード獲得が鍵を握るロボットについては、世界の最新技術を日本に集め、日本発のルールで開発競争が加速する仕掛けを構築します（World Robot Summit等）。

